

1. 科目名(単位数)	保育内容(環境) (2単位)	3. 科目番号	SJMP3133
2. 授業担当教員	荒木 由紀子		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	他の保育内容と同時期に学ぶ。実習前に学ぶことが望ましい。		
7. 講義概要	子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助である「教育」を構成する5領域のひとつである「環境」のねらいと内容を理解し、子どもを取り巻く環境について具体的な保育内容を検討しつつ学びを深めることで、総合的に保育を展開していくために必要となる理論や知識を習得する。また、身近な環境とのかかわりから導かれる子どもの育ちを理解した上で、好奇心や探究心を持って子どもが自ら活動に取り組むことのできるような環境の設定方法について学ぶ。演習形式で学ぶことにより、本講義で習得した理論や知識への理解をさらに深め、実際の保育現場での指導につながる実践力を養う		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 領域「環境」について学び、養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得する。</li> <li>・ 子どもの発達を領域「環境」の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学び、実践できるようになる。</li> <li>・ 子どもと子どもを取り巻く身近な環境との相互作用から導かれる子どもの育ちを考察し、保育計画に基づいて環境を具体的に設定することができる。</li> </ul>		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<b>アサイメント(宿題)】</b> 1. 個人発表をPPTで行う。 2. 個人課題として、シラバスにある内容の絵本の紹介を行う <b>【レポート課題】</b> 1. 課題図書を読み、それについてのレポート提出。 2. 期末に総括レポートの提出。 <b>【その他】</b> 学修の定着を図るため、時折小テストを行う。		
10. 教科書・参考書・教材	<b>【教科書】</b> 榎沢良彦・入江礼子編著 シードブック『保育内容 環境』 第3版 建帛社 2023年 <b>【参考資料】</b> 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1) 領域「環境」について学び、養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得することができた。 2) 子どもの発達を領域「環境」の観点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学び、実践できた。 3) 子どもと子どもを取り巻く身近な環境との相互作用から導かれる子どもの育ちを考察し、保育計画に基づいて環境を具体的に設定する方法を理解することができた。 ○評定の方法 上記の学習目標に基づいた規準を以下の方法で総合的に評価する。 1. 出席、参加、発表等から授業に取り組む姿勢 「授業態度」 (20%) 2. 各授業内の課題、中間レポート等 「小レポート」 (20%) 3. 学習内容を総括する課題 「期末レポート」 (60%)		
12. 受講生へのメッセージ	保育者として、自分自身が人的環境であるということに自覚して下さい。幼児は様々な環境に興味関心を持ちながら、あそびを展開していきます。子どもの思いに寄り添い、共感できる人であって欲しいと思います。 そのためには子どもの目線に立ちながら、興味関心をより広げて欲しいと思います。個人発表として幼児の目線に立ち、日常生活の中での不思議に思うこと等を「幼児の気づき」としてPPTにまとめ、発表します。また、生活の中での季節の風物詩を大切に、それに関連する製作など行いたいと思います。また、各回の講義内容に関連した幼児向けの絵本の紹介をしてもらいます。グループでの意見交換の時間を多く取りますので、積極的な参加を望みます。本学の規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は、単位の習得を認めません。遅延の場合は遅延証明書を当日またはメールにて提出して下さい。遅刻は授業開始から15分以内とし、それ以降は欠席とします。		
13. オフィスアワー	授業内(初回授業)で周知する。メールでの問い合わせは随時。yukikoaraki@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション(授業概要の説明と進め方) 「環境を通して行う保育」の意味①	事前学習	教科書 pp.1~3 を読み、学習内容の概観を把握する。
		事後学習	子どもの発達にふさわしい環境について自分の考えをまとめる。
第2回	環境を通して行う保育の意味② 領域の意味、子どもの育ちと領域「環境」 非認知能力を育む環境について	事前学習	教科書 pp.14~16 を読む。「非認知能力」について調べておく。
		事後学習	非認知能力を育むためにはどのような環境で何が

			必要かを考える。
第3回	子どもを取り巻く人的環境	事前学習	教科書 pp.24~26 および pp.184~188 を読む
		事後学習	子どもにとってふさわしい経験が積み重ねられるために、保育者に求められる視点について考える。
第4回	子どもの成長を促す物的環境(3歳未満児)	事前学習	教科書 pp.32~36 を読む。
		事後学習	3歳未満児の保育室の環境構成のポイントをふまえ、自分なりに構成する。
第5回	子どもの成長を促す物的環境(3歳以上児)	事前学習	教科書 pp.36~40 および pp.56~64 を読む。
		事後学習	3歳以上児の保育室の環境構成のポイントをふまえ、自分なりに構成する。
第6回	～身近な植物への関わり～ 環境構成と子どものあそびや生活へのつながりを考える	事前学習	教科書 pp.21~24 及び pp.91~108 を読む。関連する絵本等を用意しておく。
		事後学習	保育現場における自然環境の取り扱いについて、自分なりの考えをまとめる。
第7回	～科学性の芽生え～ 環境構成と子どものあそびを考える	事前学習	教科書 pp.43~43 および pp.64~72 を読む。関連する絵本等を用意しておく。
		事後学習	保育現場における科学性の芽生えの取り扱いについて、自分なりの考えをまとめる。
第8回	～身近な生き物(昆虫やさかな、飼育動物など)への関わりを考える～ 子どもと生き物の関係を考える	事前学習	教科書 pp.19~21 および pp.73~90 を読む。関連する絵本等を用意しておく。
		事後学習	子どもたちの活動場面から、さらにどのような展開が予想されるか、生き物の命とその責任についても考える。
第9回	～生活の中での数量や図形、文字や標識について考える～	事前学習	教科書 pp.143~177 を読む。関連する絵本等を用意しておく。
		事後学習	さらに深い学びとなるための環境構成や働きかけについて考えをまとめる。
第10回	～生活の中での行事や文化、情報機器について考える～	事前学習	教科書 pp.26~29 および pp.126~142 を読み、自分が幼児期に経験した事を記述しておく
		事後学習	保育現場における行事や文化、情報機器の取り扱いについて、自分なりの考えをまとめる。
第11回	指導計画と保育施設における安全管理 環境をとおして行うための指導計画と設備や環境、保健的環境や安全の確保について考える	事前学習	保育施設における安全管理、環境をとおして行うための指導計画と設備や環境、保健的環境や安全の確保について考える
		事後学習	安全管理についての、具体的な取り組みと、場面ごとのチェック項目について考える。
第12回	保育現場における事例をあげ、 その保育展開と学びについて発表をする (グループ活動)	事前学習	今までの講義内容を踏まえ、対象年齢や場面、展開について考える。子どもの気付きから活動の展開まで、子どもは、どんなことが楽しく、どんなことがあればもっとおもしろくなると思うのか。その経験をとおして、何を学んでいるのか、環境構成や配慮事項なども踏まえた、プレゼンができるよう発表の準備をする
		事後学習	発表者は質疑応答を受け、発表内容を見直し、不足部分や改善点について考えてみる。発表以外の者は発表の良い点を学び、自分の発表時に活かすようにする。
第13回	保育現場における事例をあげ、 その保育展開と学びについて発表する (グループ活動)	事前学習	第12回 事前学習と同様
		事後学習	発表者は質疑応答を受け、発表内容を見直し、不足部分や改善点について考えてみる。発表以外の者は発表の良い点を学び、自分の発表時に活かすようにする。
第14回	子どもの育ちに関わる現代の生活環境とその課題について考える(グループ活動)	事前学習	事前にネット等で「子どもの育ちに関わる生活環境とその課題」について調べておく。
		事後学習	各グループの視点を振り返り、自己に活かせるところを考える。
第15回	道徳性の芽生えを培う環境及び小学校との連携を考える  子どもたちの主体的な活動を促し、 豊かな経験が積み重ねられる保育内容『環境』の 実践内容を指導計画としてまとめとレポート	事前学習	「環境」からみた道徳性の芽生えを考える。また小学校と保育施設との環境の違いについて、具体的な場面や取り組みを考えてくる。これまでの学びを振り返り、子どもたちの育ちに必要『環境』について、考えをまとめてくる。
		事後学習	具体的な場面における『環境』についてあげ、それがどのように子どもの育ちとなるのかについて、説明できるようにする保育内容『環境』と、子どもの育ちとの関係について、自分なりの考えをまとめる。

